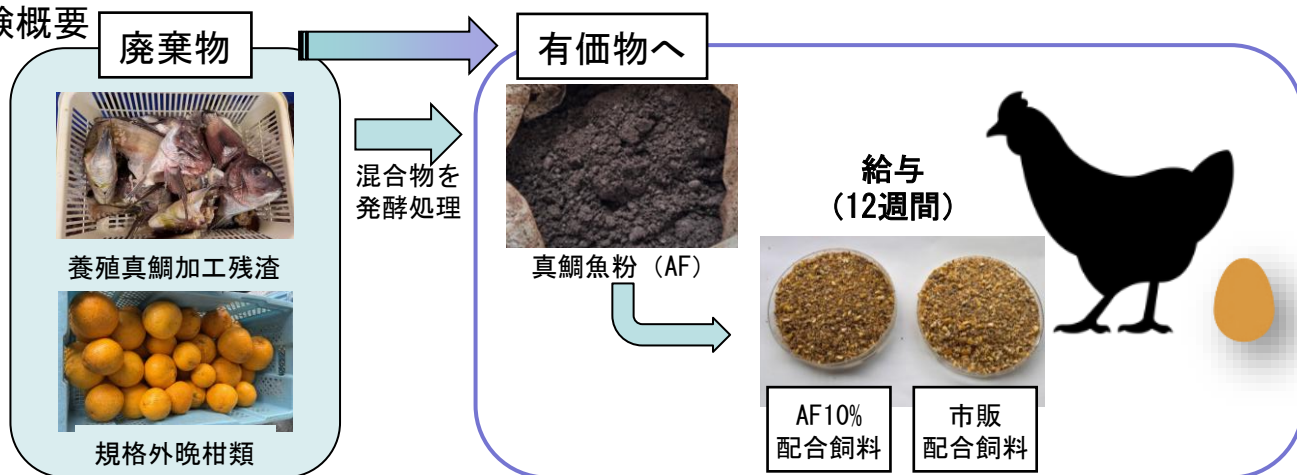


県産養殖真鯛加工残渣を活用した 高付加価値鶏卵生産技術の開発

愛媛県農林水産研究所畜産研究センター養鶏研究所 主任研究員 檜垣 邦昭

廃棄されている養殖真鯛の加工残渣と規格外の晩柑を混合処理した真鯛魚粉を、養鶏用飼料の原料として活用する際の、給与割合と生産性及び卵黄中DHAの割合との関係を明らかにした。

試験概要



●生産性への影響（若齢鶏）

（平均±標準誤差）

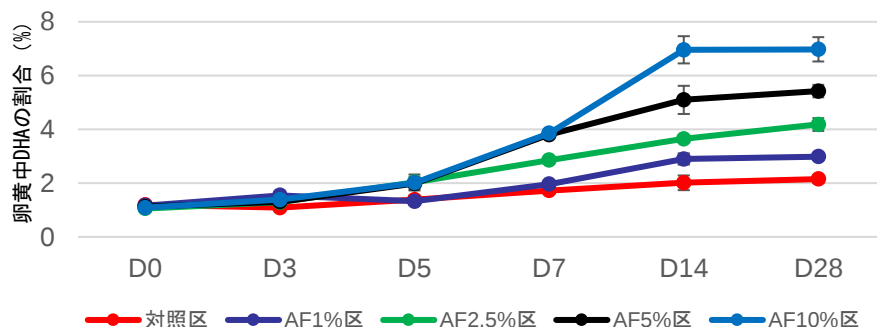
	産卵率 (%)	平均卵重 (g)	飼料摂取量※
対照区	88.3±6.52	51.2±0.76	113.5±1.59
AF1%区	93.9±2.03	49.9±0.24	117.5±3.54
AF2.5%区	93.6±2.72	50.8±0.47	117.5±2.33
AF5%区	92.8±0.29	50.0±0.26	116.7±2.80
AF10%区	94.3±2.04	48.2±0.56	119.5±1.86

※飼料を摂取した量を1日1羽当たりで算出 (g/日/羽)

◎産卵率、平均卵重、飼料摂取量ともに添加割合による差はみられなかった

◎卵黄色やハウユニットについても差はみられなかった

●卵黄中DHAの割合の推移（若齢鶏）



◎AF2.5%区、AF5%区及びAF10%区は5日 (D5)、AF1%区は7日 (D7) 以降有意に高くなった

◎14日 (D14) 以降、横ばいで推移した

◎添加割合が高くなると卵黄中DHAの割合も高くなった

■ 真鯛魚粉は、10%までであれば生産性を損ねることなく給与可能であり、卵黄中DHAの割合はAFの添加割合に応じて経時的に高くなるが、14日程度でプラトーになることが明らかになった。

■ 今後は、これら鶏卵に含まれるDHAの人への効果、ふ化した雛の生産性への影響を検証することで、更なる有効性を明らかにする。